

国会議事堂に使用され 秩父産蛇紋岩石材の産地

井上 素子

国会議事堂は、日本全国から最高品質の国産石材を集めて建設されていることをご存知ですか？明治 43（1910）年、国会議事堂には「真にやむをえざるものを除いては全部国産品を使用する」という方針が決められ、その石材選抜のために同年～45（1912）年に全国調査が行われました。石材の性質や美しさ、運搬経費などあらゆる観点から調査が行われ、選び抜かれたものが国会議事堂に使用されています。

埼玉県では唯一、秩父産の蛇紋岩が国会議事堂の中央玄関床の市松・中央広間床のモザイク・両院議員玄関幅木に使用されています。

秩父地域の蛇紋岩

蛇紋岩は、暗緑黒色、青緑色、黄緑色で樹脂状光沢を有します。方解石などが白い網状の脈をなしたものは蛇灰岩とも呼ばれています。秩父地域では、三波川帯に小規模な蛇紋岩体が分布します。

蛇紋岩は軟らかくて細工しやすいので、模様の美しいものは彫刻や装飾用石材に用いられ、「緑の大理石」ともよばれます。しかし、通常はもろくて崩れやすいため、装飾用のスラブ材（板材）として使用できるものはまれです。そんな中、皆野町金崎産の蛇紋岩は、前述の「石材調査」において、ライバルの糸魚川市小滝産や藤岡市美久里産などを抑えて、最高級の石材と評されました。

蛇紋岩採掘地（丁場）

大蔵省営繕管財局編「帝国議会議事堂建築報告書」（1938）には、蛇紋岩石材として「貴蛇

紋」（皆野町三沢）と「蛇紋」（皆野町上三沢）の 2 つが記載されています。2014 年には国士舘大学の乾睦子教授が皆野町三沢の「貴蛇紋」の丁場を特定しています。しかし最近、秩父市黒谷在住の大濱サイ子氏の証言により黒谷でも蛇紋岩を採掘していたことが明らかになりました。

大濱氏は、舅の祐一氏から国会議事堂用の蛇紋岩採掘に協力していた話をよく聞かされてきました。それによると昭和の初め、東京の石屋である奥野博氏が鉱山師の太田口福松氏と、新潟の技術師を呼び寄せて、黒谷の不動滝付近で採掘をはじめたといいます。丁場の地主は大濱弥市氏で、火薬庫や運搬路は祐一氏の地所でした。祐一氏は黒谷の蛇紋岩が国会議事堂に使われたことを誇りとしていました。国会完成後、奥野氏より弥市氏とともに 2 泊 3 日の東京見物に招待されたそうです。

国会議事堂貴衆院両院広間の大理石工事は昭和 4（1929）年 3 月に、中央玄関・中央広間の大理石工事は昭和 5（1930）年 1 月に開始されており、黒谷の採掘時期と重なります。実際に内装工事を行う際に、石材を確保するために、複数の丁場で採掘したのではないかと推測できます。

国会議事堂はどなたでも見学することができます（写真撮影は一切禁止）。残念ながら中央玄関は天皇陛下をお迎えする時などにしか開かれず見学不可ですが、国会議事堂で埼玉県ゆかりの石材をさがしてみてください。

（いのうえ もとこ・主任学芸員）



① 国会議事堂参議院議員玄関幅木 ②同中央玄関床の市松（①・②撮影乾睦子氏）③黒谷の丁場